

日本心療内科学会誌 「現場を見る:心療内科施設紹介」

## 黒松内科すぎもとクリニック

内科・神経内科・心療内科

〒981-8006 仙台市泉区黒松1-31-9 杉本ビル  
ホームページ <https://www.kuromatsu-naika.com/>

2019年10月に掲載予定

## ●施設紹介

当院は2017年9月に開院して、丁度2年が経ちました。院長はこれまで東北大学病院や関連病院などで勤務してきましたが、高齢の両親の介護の必要性が出てきて、仙台の実家の隣で開業した次第です。元々、この建物は父が杉本歯科口腔外科として建築し、もう40年も経つものですが、内科仕様に内装を変えれば、まだまだ使えます。内科・神経内科・心療内科を標榜し、最新鋭のCTを入れて、診療しています。また、特殊な口腔内科の患者も診ており、対象疾患は、口腔灼熱感症候群（通称、舌痛症）、顎関節症、口腔乾燥症（シェーグレン症候群など）、口臭症、口腔下顎ジストニア、口腔粘膜疾患（ベーチェット病やSLEなど）、口腔セネストパチー、その他の口腔心身症と言われる疾患です。



当院の概観(2017年9月11日開院)

## ●診療方針・診療の特徴

内科は近隣の患者が多く、神経内科と心療内科は広く宮城県内から、時には県外からも患者が来院します。ほとんどの心療内科は完全予約制で3か月待ちの医療機関が多いため、予約外でも受け入れている当院には、早く診て欲しい心療内科の

患者が遠方からでも来院するケースが多いようです。年齢層も内科や神経内科は中高年の患者が多いのですが、心療内科は10代から40代までが多く、しかも女性に多いという特徴があります。当院の患者の平均年齢は40歳位で若く、65歳以上は1~2割程度です。高齢者はすでに他のかかりつけ医に何十年もかかっていることが多いので、紳士協定がありますから、勧誘はしておりません。その点、将来的に近隣の高齢者の患者数には伸びしろがあると思われれます。

勤務医の時は、病院の看板に患者が来るわけですが、開業すると医師の名前に患者が来ることになります。したがって、自分への患者の評価は“患者数”という形で如実に表れるので、厳しい現実と責任感に直面します。一方、開業医は患者との距離が近くなり、患者の健康を守っているという遣り甲斐を感じる人が多いです。内科では地域のプライマリーケアを、神経内科や口腔内科では県内の専門医療を、そして、心療内科では急を要する患者の需要に応えています。

当院の心療内科の特徴は、

- ① 心理検査を多く用意して、実施しています。
- ② 公認心理師を採用して、保険診療で1時間の「心理カウンセリング」を実施しています。多くの悩める患者が安価な料金で公認心理師に心理療法を受けており、多くの患者が救われています。院長も2018年に第1回 公認心理師国家試験に合格し、本邦初の公認心理師資格をもつ医師として、診察に生かしています。
- ③ さらに、自殺予防のカウンセリングに力を入れています。一家の大黒柱を失えば、家族は悲しみ、路頭に迷います。将来ある子供たちを絶対に守らなければなりません。大人の過労死

や、子供の指導死・いじめによる自死(自殺)を未然に防ぐため、自死問題に強い民事専門の弁護士と連携し、専門的なカウンセリングを行っています。



スタッフ一同(開院2周年記念会)

職員は週1回のパート職員を含め10人ほどで、事務員や看護師の他、言語聴覚士、診療放射線技師、公認心理師、糖尿病専門医など、**多職種で協働**して仕事しています。

#### ●心療内科の問題点

心療内科の診療上の問題点は、時間がかかる割には保険点数が低く、経営的に厳しいことです。これはどこの病院でも同じ制度上の全国的な問題であり、大きな病院に心療内科が設置されない理由でもあります。心療内科の就職先が少なければ、若い医師の入局者も減る訳で、昨今の学会員減少にもつながっています。最近では総合診療科に若い医師の人気があり、その学会には活気があり、参加すると活気の違いを肌で感じます。

そのため、心療内科の患者には申し訳ないですが、当院では内科(神経内科と口腔内科を含む)と心療内科の再来外来を分け、2:1の割合で心療内科の枠を少なくし、経営を乗り切っています。2020年の診療報酬の改定では、新しい国家資格・

公認心理師との連携で、高い保険点数がつくことを期待しています。

#### ●病診連携

院長は仙台北部の大きな病院の登録医になっており、精査・入院治療が必要な場合には、そちらへ紹介しています。逆に当院にはFlow up依頼だけでなく、神経内科で行うボトックス治療や口腔内科の特殊な疾病に対し、精査・治療目的で大学病院や総合病院から紹介されることもあります。心療内科の患者では、他院で治らず、自ら当院を捜して受診する者が多いです。

#### ●学校保健・研修教育

院長は、宮城県随一の進学校、宮城県仙台第二高等学校の内科校医を務めており(院長は本校OB)、年3回の内科検診の他、「生徒と保護者のための“心身健康相談会”」を秋に実施しています。受験を前に心と体の体調を崩している生徒の相談や、保護者の医学部進路相談などにのっています。

院内教育としては、職員のために週1回、ランチオン勉強会とMeetingを開いています。

また、本邦初の試みとして、公認心理師の教育機関を併設し、黒松内科附属公認心理師養成塾「陽明館」を令和元年5月1日に創立しました。これは公認心理師のための**合格後研修**であり、2年半のプログラムを用意しています。「陽明館」は受験予備校ではありません。あくまでも適塾や松下村塾のような私塾ですので、自ら勉強したい若者に来てほしいと思っています。「教員-生徒」の関係ではなく、「師匠-弟子」の関係で、少数精鋭の若者を選抜し、入門させています。「陽明館」の詳細は、<https://cocoro-job.jp/hospital/723/>

(文責：院長 杉本是明)